

所沢市民文学講座（全6回）

松本清張を呼びもどすー「隠蔽と暴露」の作家から学ぶー

松本清張がこの混乱の時代に大々的に復活しています。松本清張は、日々の「何故だろう、何故だろう」から発し、人と社会の暗い秘密をさぐりあて、それを暴露し、告発しつづけました。松本清張死後30年の今、人と社会の秘密は依然変わらず、かえって見えにくいものになりつつあります。松本清張の社会派ミステリーは、わたしたちに人と社会の暗い秘密を見抜く方法を教えてくれます。ゆたかで重厚、スリリングであたたかい、「隠蔽と暴露」の作家松本清張を今に呼びもどします。

■日程と各回のテーマ・作品名

- 第1回：5月13日（金） 松本清張は何処から来たか——『半生の記』（新潮文庫）
- 第2回：6月10日（金） 「隠蔽と暴露」の方法——『随筆 黒い手帖』（中公文庫）
- 第3回：7月8日（金） 過去を消せ！——『張り込み』（新潮文庫）
- 第4回：9月9日（金） 冤罪の恨みは誰に向ければよいのか——『霧の旗』（新潮文庫）
- 第5回：10月14日（金） 救いなき時代小説の救いとは——『無宿人別帳』（文春文庫）
- 第6回：12月9日（金） 若き病院長の欲望——『わるいやつら』（新潮文庫）

■時 間： 毎回午後2時から4時15分まで（途中休憩あり）

■会 場： 所沢まちづくりセンター 中央公民館 学習室8・9号

■講 師： 高橋 敏夫先生（早稲田大学文学部教授）



1952年生まれ。早稲田大学第一文学部卒業。文芸評論家、学生時代から類まれな文芸評論で注目され、その後も社会事象や映画、マンガ、音楽、演劇など多様なジャンルを横断し、鋭い現代評論を展開する。カルチャーセンター、公民館などでの講演も年間50回近い。

著書：『藤沢周平 負を生きる物語』 『藤沢周平と山本周五郎—時代小説大論議（佐高信との対談）』 『井上ひさし 希望としての笑い』 『3.11以後に松本清張を読む』 『松本清張「隠蔽と暴露」の作家』 『抗う 時代小説と今ここにある「戦争」』他多数

■参加費： 3,000円（6回分） ■定 員： 60名（申込多数の場合は抽選）

■申し込み方法： 往復はがき（1人1枚）に、氏名、性別、住所、電話番号を記入のうえ、
4月20日まで 下記宛にお申込み下さい。（6回とも参加可能の方）

〒359-1162 所沢市和ヶ原2-200-24 佐藤 八郎

■お問い合わせ： 佐藤 八郎（サークル「漆の実」代表）TEL：04-2948-8247

■主 催： サークル「漆の実」（昭和の小説及び作家を通じて文学に親しむサークル）

松本清張（1909—1992）

1953年『或る「小倉日記」伝』で芥川賞受賞。

1958年の『点と線』、1959年の『ゼロの焦点』、1960年の『日本の黒い霧』は推理小説界に“社会派”の新風を生む。

生涯を通じて旺盛な創作活動を展開し、その守備範囲は古代から現代まで多岐に亘っている。

